未来に羽ばたけ日枝中 ～We Love HIE～

湖南市立日枝中学校学校だより
令和３年（2021年）３月８日①

のがみがわ

和衷共済（わちゅうきょうさい）
心を合わせて協力して物事を行うこと。和衷は、心の底から一つに合わせること。

文責　校長　藪下　和彦

１週間後に控える卒業式

１週間後の今日、３年生は３年間この学び舎を後に、日枝中学校第３８期生として義務教育課程を修了し、次のステージへ向けて巣立っていきます。でもその前に、明日、明後日は、いよいよ県立高校一般選抜試験、実技試験があります。そして、土日を挟み５日後には第３８回目の卒業式を迎えます。また、その翌日には、県立高校の合格発表日です。この１週間で受験本番、卒業式、そして合格発表と、人生の大きな節目を迎えることになります。「のがみがわ」を手にするのも今日の今月号が最終となりました。前号の２月号でもお伝えしたとおり、『誇れる３年生』として、この日枝中学校に数々の新たな伝統を創り上げてきてくれました。ちょうど３年前、あなたたちが入学してきた日に、入学式の式辞で、当時の校長先生はあなたたちへ向けて次のような内容の話をされていました。

入学式での話（平成30年4月9日）

話は北海道のクッチャロ湖という湖に飛んできた渡り鳥のコハクチョウのお話です。この時期、徐々に暖かくなってきて渡り鳥たちも自分の古里であるさらに北の国に帰っていくようです。何千キロと飛び続けなければならない彼らにとっての途中の休憩地としてこの湖にやってくるようです。約二万羽がこの湖にいるようですがこの渡り鳥たちを大事に思う方がえさになる大麦を撒いてやって世話をしてくださっています。

記事を読みます。エサが撒かれると一斉に同じ方向に旋回し出します。一カ所に撒かれたエサが均一に広がるまでどの鳥もえさを食べません。みんなに行き渡ることを確かめてリーダーの一声で一斉に食べ始めます。鳥たちの整然とした様子がカメラマンの目にはとても誇り高く映りました。「争いをして羽根を傷める仲間を出すわけにはいかない。北の国にはみんなで帰る。誰一人見捨てることなくみんなで生きていくのだ。」と誓っているようだった。」と書かれていました。

この話がみなさんの中学校生活と重なるように思うのです。エサを撒かれた時にすぐに食べたい気持ち、自分さえよければよいという気持ちを抑えて、このコハクチョウたちは旋回し、みんなに行き渡るのを待つ集団としての思いやりと規律があります。そして誰一人脱落することなく、全員がしっかり栄養を得て、力を蓄え、自分のめざす北の古里の大地、皆さんで言えば、将来の目標に向かって飛んでいくんだという仲間意識と強い決意が感じられます。2千キロ3千キロもの長い距離を飛び続けるコハクチョウの持つ習性に学びたいものだと感動しました。新入生の皆さんにもこうした姿を期待したいのです。

願いとして、仲間を大切にする人であってほしい、そうした集団づくりをする上での思いやりと自分のわがままを抑えられる自分に対する厳しさを持ってほしいということです。仲間を大切にしてよりよい集団を作り、学びやすい学校を作ること、自分らしさと自分の持てる力が精一杯発揮できる仲間関係を作ることが大切だと思うのです。その土台があってこそ勉強や部活動などが生き生きとしたものになり、自分の心と体の栄養になると信じます。そしてこのような思いやりと規律のある集団の中では「いじめ」は起こりません。みんなが安心して学校生活を送れるよう「仲間を大切にする心」を根本においてほしいと願っています。このことが私も皆さんの仲間の一人として、皆さんとともに今日のこの式の中で約束したいことです。一緒によい学校を作りましょう。

「仲間を大切にする心」を根本において学校生活を送ること。みんなが安心して学校生活を送れる学校づくりを生徒と先生方がともに力を合わせて取り組んでいくこと。あなたたちは、その先頭に立って少しでも全校生徒が生活しやすい学校づくりに務めてくれました。

ふと、目にとまりました。

お陰様　（中学校三年）

第四十二回少年の主張全国大会より

三月二十八日、私は「お陰様」の本当の意味を初めて知ったような気がしました。三月二十八日は私のおじいちゃんの三回忌で私は実家に帰省しました。お寺の住職さんも来てくださり、お勤めをしてくださいました。そして、その住職さんがこう話をしてくださいました。「ある右ききの男の子の右手はいつも左手にこう怒るそうです。『字を書くときも、食べるときも、はさみを使うときも働いているのはいつも俺じゃないか！』でも、左手は何も言いません。そしてある日、その男の子は左手を骨折してしまいます。でも、男の子は右手が動くから大丈夫だと思っていました。しかし、字を書けばゆがみ、ご飯を食べれば犬食い状態になり、はさみを使うのもひと苦労。この時始めて男の子は気づきました。『字が書けるのも、左手が紙をおさえてくれているから、ご飯を食べられるのも、左手がおわんを持ってくれるからだ』と。右手はすごく活躍しているけれど、それを陰で支えているのは左手なのです。その陰での支えがないと活躍もできません。だから昔の人は陰に敬意を表し、言葉の前に『お』をつけ、さらに『様』をつけ、『お陰様』と言葉をつくったそうです。活躍している人よりも、陰で支えている人に敬意を表すことが昔の人の教えではないでしょうか。」

私はこのお話を聞いて、「お陰様」と自分とを重ねて考えてみました。私は、中学校からバレーボールを始めました。今はキャプテンを務め、ポジションはスパイカーです。バレーボールの試合を見ていると、スパイカーが活躍しているように見えます。スパイクにつなげるためにはレシーブやトスをしてくれる仲間が欠かせません。仲間のレシーブやトスがないとスパイクは打てないのです。

ある男の子が左手が使えなくなって初めて大切さに気づいたように、よく「人は失ってからその大切さに気づく」と言います。最近、私はそれを身を持って感じています。いつも当たり前だったことがそうではなくなってきているのです。

だから私は、これからも「お陰様」の本当の意味や、私を陰で支えてくださっている人への感謝の気持ちを忘れず、生きていきたいです。そして、将来は、私の夢である養護教諭として生徒を「陰」から支えられる人になりたいです。養護教諭という保健室の先生は、私が中学生の頃、何度か体調を崩し保健室を訪れたときにも、「いつでもおいで」と親身になって相談にも乗ってくださいました。そんな先生のように、将来は、自分が「陰」として生徒の心と身体の健康を支えていきたいです。

表に見えているものや活躍している人だけに目を向けるのではなく、陰で自分を支えてもらっている人に感謝の気持ちを忘れず生きていきたいものです。

多くの方々に支えられ見守られ

～更正保護女性会の皆さんからの贈り物～

さる３月３日、湖南地区更正保護女性会の皆さんが本校にご来校くださり、卒業生に贈り物をしていただきました。

学校と更正保護女性会を結ぶ「愛の贈り物」活動として毎年素敵なプレゼントをしていただいています。今年度も心温かい応援メッセージが書かれたクリアファイルを卒業生全員に贈っていただきました。若者たちを支えていただける活動は本当に尊く、感謝の気持ちでいっぱいです。コロナ禍で思うような活動がお互いできない中ではありますが、地域で常に見守る立場として、何かできることがあれば、何なりと仰ってくださいと暖かいお言葉も頂戴しました。人や物といった協力や支えもありがたいことですが、何よりもこうした『心』の支えがありがたく、心が暖まりました。本当にありがとうございました。

１年間ありがとうございました。

誰もが経験したことのない新型コロナウイルス感染症。様々な場面で制約の多い中、登下校の見守り、古布や消毒液等の支援物資、ボランティア等で、地域や保護者の皆様には、一年間本当にお世話になりありがとうございました。今までと変わりなく心温まる言葉がけや支援を続けてくださいましたことに、心より感謝申し上げます。収束の兆しが見えない中ではありますが、次年度も引き続き子どもたちの見守りやご支援をよろしくお願いいたします。

未来に羽ばたけ日枝中 ～We Love HIE～

のがみがわ

湖南市立日枝中学校学校だより
令和３年（2021年）３月８日②

和衷共済（わちゅうきょうさい）
心を合わせて協力して物事を行うこと。和衷は、心の底から一つに合わせること。

文責　校長　藪下　和彦

生徒会の取組

◆生徒会旗の引継について◆

日枝中学校生徒会の念願であった、生徒会旗がようやく完成し、3月2日（火）に校長室で、旧本部役員と新本部役員との間で、引継式が執り行われました。本来ならば、11月の全校集会の場で、生徒会執行部の引継式で引き継がれるべき生徒会旗。コロナ禍でもあり、今年度中の引継は難しいかと思われていましたが、何とかこの日にたどり着くことができました。

旧体制から新体制へ「バトンを引き継ぐ」と言われることがありますが、こうして目に見える形として、受け継がれると気の引き締まる思いがします。

引継式の中で、旧生徒会長のS.Oさんからは、次のようなメッセージが現生徒会長のS.Nさんへ送られました。『自分たちの代は、このコロナ禍の影響でいろいろな場面で悔しい思いをしてきました。後輩のあなたたちは、是非私たちの悔しい思いも一緒に引き継いで、自分たちの手でより良い学校づくりを目指してください。』

メッセージを受けたN会長からは、『先輩たちが抱えてきた悔しい思いを自分たちはしっかり受け継ぎ、少しでもその思いを晴らすことができるよう学校をリードしていきたと思います。』と力強い言葉が返されました。期待しています。

◆赤い羽根共同募金活動について◆

今年も10月1日から全国で一斉に「赤い羽根共同募金活動」がスタートしました。本校の取組は、毎年３学期に計画されており、全校生徒への募金活動の結果、4.438円が湖南市の社会福祉協議会に手渡されました。

募金活動に協力いただいた生徒の皆さん、ご協力ありがとうございました。赤い羽根共同募金は、地域で行われる様々な福祉活動や新型コロナウイルス感染下の福祉活動、豪雨災害などの被災者支援活動に役立てられています。

生徒会の取組

◆書き損じ・使い残しはがきチャリティについて◆

皆さんから送っていただく63円のはがきが募金に生まれ変わると、例えば次のようなことができます。■ポリオから子どもを守るためのワクチン（3回分）。一度ポリオに感染してしまうと有効な治療法がほとんどありませんが、ワクチンの投与によって感染を予防することが可能です。■下痢で体から水分が奪われて命を失うことを防ぐ経口補水塩（7袋分・1袋は1リットル用）。汚染された水を飲み、下痢を繰り返すと水分が体から大量に出て行ってしまいます。これを防ぐのが経口補水塩です。■失明（目が見えなくなること）を防ぐビタミンAのカプセル（25錠分）。ビタミンAが極度に不足すると、取り返しのつかない失明の恐れがあります。また、免疫システムの機能に不可欠な栄養素であるビタミンAが欠乏すれば、免疫力が低下し、はしかやマラリア、下痢などのごく普通の病気で死に至る危険が25％も高くなります。しかし、5歳までの子どもに、高単位ビタミンAのカプセルを半年ごとに1つずつ飲ませるだけで、ビタミンA欠乏症を防ぐことができます。家庭の引き出しで眠っているはがきや切手が、世界の子どもを支援するための大きな力となります。

◆コンタクトの空ケースもリサイクル◆

2010年から始めたこの取り組みでは、これまで累計で335トン、およそ3億3000万個分の空ケースを回収し、930t分のCO2削減を実現しました。空ケースはリサイクル工場で粉砕されたあと、再生材料として化学繊維など、様々なものに生まれ変わっています。また、リサイクルで得られた対価の全額を日本アイバンク協会に全額を寄付し、角膜移植手術に役立てられているほか、アイバンクへの献眼活動などの普及活動に利用されているそうです。

中庭の美し松

開校当時からになるのでしょうか。本校の中庭に他の樹木と一緒に「主」のような存在として、私たちと生活をともにしてきた国の天然記念物に指定されている「美し松」。今年度に入り、「線虫」といわれる松食い虫が松の中に入り込み、松全体のいくつかの部分が枯れ出してしまいました。本校ＣＳの理事長である細居様にもご協力いただきながら、薬剤の散布あるいは、枯れてしまった木や枝を除去する作業をしていただきました。「線虫」によって完全に支配されると、松の木毎伐採となるそうです。細居様いわく、わずかではあるが、まだ緑の部分も存在し松自体が「線虫」と闘っているとも仰います。季節が春となり「美し松」が復活する日を待つのみです。早く元気になって、元の姿に戻ってくれることを祈るばかりです。